



林 声

2013



月号



津山市弓道場は、平成21年度森林整備加速化・林業再生事業で整備した施設で、弓道愛好者や地元の高校生などに利用されています。弓道以外にも地域住民の交流や教育の場として邦楽演奏会などを催しており、木造施設のモデル的な施設として展示効果を高めています。

【施設概要】木造平屋建て 床面積423m² 木材使用量159.2m³ (うち県産材94.3m³)

目 次

行政トピックス.....	2	防ごう労働災害、お知らせ.....	10
新年あいさつ.....	2	技能講習会、イベント情報.....	11
がんばる森林組合(岡山森林組合).....	3	林産物市況.....	12
普及最前線「この人に聞く」⑪.....	4		
普及情報(普及推進課).....	5		
林業技術④.....	6		
森林研究所コラム.....	7		
木材利用・技術⑤.....	8		
森林施業プランナー育成研修の開催.....	9		



岡山県マスコット
「うらっち」と「ももっち」

新年のごあいさつ



岡山県林業
改良普及協会
会長
井手 紘一郎

新年あけましておめでとございます。
会員の皆様には、輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

平素から当協会の運営につきましては、格別のご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年は、東日本大震災からの復興の取組が進む中、九州北部豪雨が発生し、あらためて、山地災害防止等、森林の持つ公益的機能の重要性を再認識したところであります。

また、エネルギー問題が重要な課題となる中で、木質バイオマスへの注目が一層高まっており、真庭地域においては、放置されている林地残材や、間伐材の利用を促

進するため、木質バイオマス発電施設の建設が計画されました。

さて、新たな森林計画制度であります。森林経営計画への取組も本格化し、施業の集約化や路網の整備推進のため、現場管理、作業道作設技術の習得や森林施業プランナー育成を目指し、研修事業が実施されています。また市町村森林整備計画策定支援など、普及指導の推進役である日本型フォレストナー育成のため、准フォレストナー研修も昨年度に引き続き実施され、地域の基幹産業としての林業振興が強力に推進されています。

岡山県では、昨秋、県知事選が実施され、新しい知事が就任されました。現在、「第3次おかやま夢づくりプラン」に基づいて県産材の需要拡大、林業生産性の向上、「力強い」担い手の育成対策等に取組んでおられますが、さらにスピード感を持った森林・林業振興施策を推進されることを期待しています。

ところで、当協会では、会員の

皆さまのご協力を頂きながら、林研グループ交換研修大会を開催したほか、全国林業研究グループ連絡協議会事業を活用し、勝間田高校の生徒を対象としたインターンシップ（林業就業体験）や、鏡野

林業研究グループ連絡協議会による岡山大学の学生の間伐体験指導などを支援してまいりました。今年中国・四国ブロック林業研究グループコンクール開催が本県に決定しており、各地域の林業研究グループ活動発表や現地視察等、県内外のお客様をお迎えし、盛大に開催したいと存じますので、皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

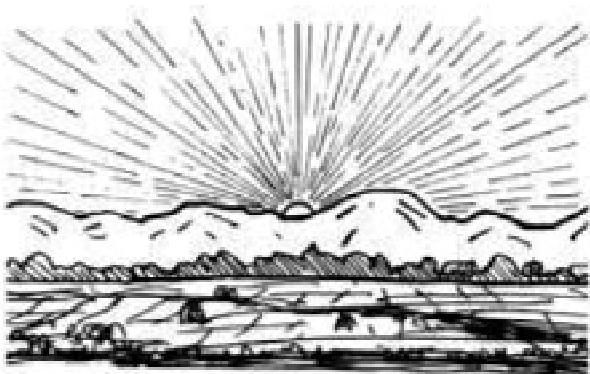
また、昨年は、2年ぶりに「おかやま森の大使」募集・選考会を実施し、新大使を委嘱したところであり、今後も森林・林業の大切さや木材の良さをより広く、県民の皆さまにPRしてまいることとしております。

本年も、森林づくりへの意欲が一層喚起され、地域産業としての林業が活性化し、県・市町村・林

業事業体など関係者間の連携を図りながら、本県の林業経営の改良と林業技術の普及を図り、林業の振興に寄与してまいります。

会員の皆さまの一層のご支援、ご協力をお願いいたしますとともに、それぞれの分野でますますのご活躍をお祈り申し上げ、新年のごあいさつとさせていただきます。

迎春



特集「がんばる森林組合⑨」

岡山森林組合の紹介

岡山普及指導区

一 はじめに

岡山森林組合は平成20年4月、岡山市森林組合、御津森林組合、建部町森林組合、加茂川町森林組合の4森林組合が合併して設立され、岡山市及び吉備中央町（旧加茂川町）を事業区域としています。組合員数は約2,600人、地域内の森林所有者の約1割強の組織率で、地域の森林面積の約3割が組合員の所有です。平成23年度に、県南の森林組合では初の中核森林組合の認定を受け、組合経営に一段と責任が増した浮森組合長に、いろいろとお尋ねしました。



浮森 組合長

二 インタビュー

①組合の事業展開の課題は何でしょうか。

・地域全体では、人工林率18%、その齢級構成は8齢級前後が中心となっており、資源構成内容が若く今後施策が必要です。しかし、組合員の組織率は約1割と低く、強力な「営業」活動が欠かせません。

・地域の森林関係情報を細かく収集して、森林経営計画の新規認定を計画する等の努力をしています。

・事業区域が、旧御津郡などの森林（人工林）地域と、南部のアカマツ・雑木を主な資源内容とする地域とにまたがり、各地域特性に沿った事業展開が求められています。

・広域の合併をしているので、全体的な「なじみ」を意識的に図る必要があります。

②森林組合が作成した資料では平成23年度も相当量の事業を実施されている様ですが。（素材生産3,900立方メートル、新植30センチ、下刈り89センチ、除間伐181センチ、搬出間伐67センチ公園管理・河川敷伐開等々）
・組合の安定経営のため、組合員はもろろん、国・県・市町のあらゆる業務を実施しています。営業活動も行っています。

③人材育成面の苦労も多々あるのではないのでしょうか。

・新規採用により平均年齢も若返っていますが、安定定着が課題です。都市部の工場等の他業種からの参入者を、厳しい自然条件下での作業に、いかに慣れさせるかが大きな課題です。

・緑の雇用等の各種研修制度には積極的に参加させて資格の取得に努めています。

④県南に所在する森林組合として、地域特性を活かした取り組みを継続実施されていますが。

・「林声」第419号（平成23年9月発行）の表紙でも紹介された「未来へつなぐ森林体験実行委員会」の主体として、岡山市と連携して、青少年を対象とした間伐・枝打ち・シイタケ駒打ち等の森林体験ツアーを継続しています。県



森林体験ツアーのひとつま（植樹）

南部の都市部を事業区域に含む森林組合として、森林・林業の広報・啓発活動にも積極的に取り組んでいます。平成25年1月27日（日）にも、本年度2回目のツアーを計画しており、現在参加者を募集しています。

三 終わりに

事務所の壁に掲げられた表彰状類の数々が、これまで地域の森林管理に責任を持った取組みを行ってきた岡山森林組合の姿を象徴している様でした。

最後にお尋ねした「行政に希望する事」として告げられた、「各種情報の提供やきめ細かな普及指導を」との声に、十分に応える普及指導を今後とも展開して行く決意とともに事務所を後にしました。

（林業普及指導員 中村 学）

森林体験ツアー参加者募集

日時：平成25年1月27日(日)

8:30 ~ 15:45

内容：森林体験バスツアー

間伐、枝打ち、しいたけ
種菌駒打ち作業

問合せ先：

「未来へつなぐ森林体験実行
委員会」事務局

TEL(086)803-1345

普及最前線

「この人に聞く！」 11

備中南森林組合

田中 晃さん (43歳)



備中南森林組合が行っている森林整備の現場を訪ねて、総社支所フォレストターの田中晃さんにお話を伺いました。

【この仕事に就くきっかけは】

木を育てることを仕事としてきたので、造園関係の会社に勤めていました。30歳を越えた頃、広々とした場所での仕事で、この先ずっと続けられる仕事を考えていました。そのころ県森連主催のガイダンスがあり、現職場を紹介され決心しました。

【いまの仕事の内容は】

班長と自分の二人の班に所属し

ていますが、現場の状況で、年配の班と組んでやる場合もあります。年配の人はトウグワなどうまく使いこなしています。今の仕事は、松くい虫でマツが枯れ、荒れた山が主で、伐り開いて植林することが主体となっています。危険木の伐倒、地ごしらえ、植林、下刈り、間伐など造林関係で、冬場はCO₂吸収源対策間伐や個人の山をやっています。仕事は切れ間なく続いています。最初にチェーンソー等の講習を受け、機械はできるだけ自分で手入れをしています。そして、自分たちの生活に必要な樹木を植えています。森林組合に入って直ぐでしたが、平成14年頃山火事後の復旧が記憶に残ります。

【この仕事の魅力は】

やったところは残っていくので「やってきたなあ」と思えるところが増えていくことです。年数がたつにつれて木の成長も励みになります。つらいことはハチに刺されることや、緊張が続く現場では、いつの間にか打撲の痕があったりする事です。しかし仕事を続けているのは、誰かが山へ入って手入れや整備しないと、そのままではダメだという気持ちです。こつ

こつとでも、やればやるだけの成果があります。気持ち良いのはマツやアベマキなどの大きい木を思うように倒せたときで、特に人家に近いところでは気を使って倒しています。

【将来は】

今は集材をしていますが、伐った木が材として使えるので、やってみたいです。総社から新見や津山の市場は遠いですが、木材の利便が進めばまた違うかもしれません。木を使う環境としては、きのこでも何でも良いと思うし、薪ストーブも良いのではと思います。木から液体燃料ができるという話も聞いたことがあります。関心があります。木の価値がもっと認められればと思います。



枯れ松の伐倒作業



現場での打ち合わせ

【趣味は】

休日は家族とゆっくりしたり、子どもの野球を応援したりして楽しんでいきます。

【皆さんへのメッセージは】

総社の山では何のこともないところが、入ってみると歴史的にも意味のあるところがあって、興味深いです。しかし、現場は手入れの行き届いていないところはまだあるので、頑張らないといけません。

みんなで、もつと山を生き活きとさせていきたいです。

【インタビューを終えて】

地道に地域の現場で仕事を続けておられる話をお伺いし、心強く思いました。今後ますますご活躍されることを期待します。

(倉敷普及指導区)

林業普及指導員 大森 章生

普及情報

森林環境学習に用いる「森林
土壌降雨実験装置」の作製

はじめに

森林は「緑のダム」とも言われ、森林に覆われた流域は裸地化した流域に比べ洪水流出が少なく、降雨のない時にも安定した流出をします。実はこのような洪水緩和と流出量の平準化を担うのは、樹木本体の働きと比べ、多くは保水性と浸透性に優れた森林土壌の働きによるものですが、その理解はなかなか実感を伴いません。

このことから、普及推進課では森林環境学習等の場において子供達が実験を通して水源かん養機能等の公益的機能を体感できる実験装置を作製しました。

○森林土壌の働き

森林土壌には落葉落枝等が分解されながら堆積しており、地表を覆う層が適度な水分を保ちこの環境に微生物や小動物の働きが加わることにより土の中にたくさんの隙間が生じ、これらが森林土壌の優れた浸透性や保水性の源となっ



て水源かん養機能を発揮します。

また、落葉落枝等は雨滴による地表面の浸食防止や高い浸透性による地表流の発生抑止に貢献し、たとえ地表流が発生した場合においても、そのスピードの軽減により優れた土砂流出防止機能を発揮します。

○実験装置と実験方法

前記の水源かん養機能のカギとなる森林土壌の浸透性と保水性を確認するため、地表から15cm程度崩さないよう剥ぎ取った森林土壌と、対比する裸地として突き固めたマサ土をそれぞれ園芸用のプランターに入れ、山地の斜面のように傾けて置くことのできる台に設置します。そして、プランターに降雨に見立てたジョロで水を撒き、森林土壌と裸地のそれぞれの表面



流出水と底部から流出する浸透水をペットボトルに回収します。

なお、ペットボトルの容量は2リットルなので撒く水の量も2リットルとすると流出する割合が解ります。

○実験結果と学習効果

ジョロによる降雨実験にあたり子供達は、「森林に覆われた山」と「はげ山」に、激しい降雨があったことを想像します。

通常の実験結果は、森林土壌ではほとんどの雨水がすぐさま浸透した後、ゆっくり底部から流出し、表面流出はほとんど生じません。また、マサ土による裸地では、ほとんど浸透せずそのまま表面水として土砂を巻き込みながら流出し、表面浸食と雨谷が発生します。



この結果から子供達は、森林土壌の優れた浸透性を確認するのに併せ雨水が保水されながらゆっくり流下するのを確認し、森林土壌

が緑のダムとして機能することを学習できます。

また、裸地の表面を撒いた水量とほぼ同量の水が一気に砂と一緒に流れ出る様子は、実際に大雨が降った際に起こりうる洪水や土砂災害を想像させます。

○子供達の反応と今後の利用

本年度、中学生を対象とする学習に本実験を行ったところ、子供達は森林の持つ水源かん養機能や土砂流出防止機能を実感をもって理解した模様でした。なお、説明に使う語句をやさしいものに変更するだけで小学生にも十分理解ができる内容となっており、今後、県下各地で行われる森林教室などの機会に利用したいと考えています。



(普及推進課 林業普及推進班)

**林業技術④
路網と高性能林業機械を組み合わせた低コスト作業システム**

集約化施業を効率的かつ低コストで行うためには、路網と高性能林業機械等を組み合わせた森林施業の実施が求められています。

一 作業システム

作業システムとは、森林内の立木を伐倒、集材、造材、運搬までの一連の作業工程を、人と高性能林業機械等を組み合わせで行うことです。

高性能林業機械を活用して高い生産性を実現するためには、工程数を少なくし、小人数で運用可能となるよう高性能林業機械を適切に組み合わせ、配置することが重要です。

二 基本的な考え方

作業システムを検討するうえで重要なポイントになるのが、森林の地形・傾斜と路網密度です。

そのうえで、間伐か皆伐か、列状間伐か定性間伐か、事業量、事業期間などの条件によって、作業

方法が決められ、機械の選択と組み合わせ、人の配置などが計画されます。

作業システムは大きく分けて、車両系と架線系の2種類に分けられます。

区分	作業システム	路網密度 (m/ha)	作業システムの例			
			伐倒	木寄せ・集材	枝払い・玉切り	運搬
緩傾斜地 (0~15°)	車両系	100~250	ハーベスタ	グリップル	プロセッサ	フォワードトラック
	架線系	75~200	ハーベスタ チェンソー	グリップル クワイチ	プロセッサ	フォワードトラック
中傾斜地 (15~30°)	車両系	25~75	チェンソー	スイングキータ	プロセッサ	フォワードトラック
	架線系	60~150	チェンソー	グリップル クワイチ	プロセッサ	フォワードトラック
急傾斜地 (30~35°)	車両系	15~50	チェンソー	スイングキータ タワーキータ	プロセッサ	フォワードトラック
	架線系	5~15	チェンソー	タワーキータ	プロセッサ	トラック
急峻地 (35°~)	架線系					

地形傾斜と路網密度による作業システムの例

車両系作業システムは、ハーベスタやグリップル等を用いた作業システムで、生産性は架線系に比べて高くなりますが、高密度な路網が必要になります。

岡山県では、車両系作業システムが中心に行われており、森林作業道と組み合わせた作業が行われています。

また、架線系作業システムは、スイングキータ、タワーキータを

用いた作業システムで、急傾斜地等で路網の整備が困難な場合には、架線系を採用するようになります。今後、岡山県でも架線系の採用が多くなることが考えられます。



三 労働生産性と生産コスト

作業システムを構築するうえで、目安となるのが労働生産性と生産コストです。労働生産性の現状は、主伐で4.76立方メートル/人日、間伐で3.45立方メートル/人日にとどまっています。

効率的でかつ安定的に林業経営を行うため、事業者が十年後に達成すべき目標として、間伐で8~10立方メートル/人日、主伐で11~13立方メートル/人日以上とされています。

また、生産コストでは、列状間伐で3,500円/立方メートル、定性間伐では5,000円/立方メートル以下としています。

なお、先行的な取組として、欧州等から先進林業機械を導入し、更なる生産性の向上を図り、持続的な林業経営に取り組む林業事業者もあります。



林業用トラクタベースのハーベスタ

四 終わりに

生産性は、単純に高性能林業機械を導入すれば向上するとは限らず、その地域の森林の状況や作業方法によって、必要となる機械を導入し、路網と組み合わせることによって、効率的な作業システムを構築することができます。

高い生産性は一朝一夕にできるものではなく、作業システムの運用を常に改善して、最適化し、継続的な取組をしていく必要があります。

(普及推進課 林業普及推進班)

① ② ③
木質資源のエネルギー利用
―竹の利用―

森林研究所
特別研究員 石井 哲

一 注目される木質資源

地球温暖化防止や持続可能な社会の構築に向け、化石資源に替わる太陽光、風力、バイオマスなどの再生可能エネルギーの活用が一段と注目されています。森林・林業関係では、木質バイオマス発電等の大型施設が全国で建設される他、薪ボイラーやペレットストーブ等の小型の燃焼施設の設置も増えてきています。

二 木質資源の理想的利用

・多段階利用

木質バイオマスを利用する場合、多段階（カスケード）利用が理想とされ、ヨーロッパ等では基本的な考えになっています。単に燃料として利用するだけではなく、まず、材料として、建築用材、家具等、次に紙、パルプ、パルペーション、そして最後に燃やす、という利用方法です。

・地域内消費

化石資源に比べ発熱量が小さくかさばる木質資源は、運搬経費を考慮し、小規模分散型の地域内消費が適しているとされています。

・熱電併給

発電への利用は近年急激に増えつつありますが、発電のみのエネルギー効率は、2〜3割程度です。一方、発熱利用は、簡単な設備で効率がよく、発熱と発電を併せた熱電併給は、より優れた利用方法とされています。

三 竹林資源

このような観点から木質資源の中でも、竹林資源を見てみますと、まず、竹は生け垣や支柱等で利用できるほか、本県ではカキ筏として、毎年多くが利用されており、多段階にうまく利用できる資源といえます。

次に、竹林は小規模分散しているため、地域内で利用することが最も効率的であり、さらに竹は木と比べ、簡単な道具で個人でも容易に伐採、利用できるため、小規模利用が可能な資源といえます。

竹林の蓄積に関しては、かつては鈔当たり約100トンとされて

いましたが、最近の各県の調査によると200トンを超える事例もあり、本県においても132トという竹林がありました。竹林の資源量を人工林と比べてみますと、鈔当たりでは、スギやヒノキの方が、モウソウチクより多くなっています（表）。しかし、モウソウチクの伐期は4〜5年生で、さらに毎年、新たな個体が発生し、同一竹林内に様々な個体が生育しています。従って、伐期以上のもの（全体の4〜5分の1と推定）を毎年収穫できるといふ利点がありますが、これを試算すると収穫量は、スギ

やヒノキよりはるかに多くなりま

す。ただし、これはあくまで計算上の数値であり、実際にこれだけの量を継続して伐採、利用した報告事例は見当たらず、今後の調査・研究を待たざるを得ません。

発電利用に関しては、電気の固定価格買取制度における経済産業省の告示では、対象が「立木竹」となっており、証明の有無により買取価格は異なるものの、竹も買い取り価格制度の中に含まれています。再生資源量の豊富な竹林の発電利用を検討するのにもひとつの策と思われれます。

四 おわりに

当所には、竹林に対する相談が多く寄せられますが、以前は、拡大防止に関する内容が中心でした。しかし、最近では、里山整備の一環から利用に関する相談も増えてきています。再生可能資源が注目される中、竹は市民レベルで、材料としても燃料としても容易に利用することができません。厄介者として放置せず、積極的に利用されることを期待しています。

表 樹種別資源量の試算 (ha当たり)

樹種	資源量(t)	備考
スギ	193	地位上、50年生、508m ³
ヒノキ	170	地位上、50年生、387m ³
モウソウチク	129	最近の調査結果の一例
モウソウチク 試算1	1,290	5年伐期、50年間
モウソウチク 試算2	1,613	4年伐期、50年間

木材利用・技術 ⑤

「第39回JAS製材品普及推進展示会」において、最高位の農林水産大臣賞を受賞された、小林製材株式会社真庭市)の小林淳一社長に受賞の喜びや会社の取組についてお聞きしました。



小林社長

「2年連続農林水産大臣賞受賞」

当社は美作産ヒノキを、確かな技術力により製材・乾燥・加工・品質管理をして市場に出しています。きちんとした製材品を作ることには会社、ひいては社員の生活向上に繋がります。平成23・24年と2年連続で大臣賞を受賞しましたが、比較的安価で良い品物を作れば必ず認められると、社員一人一人が汗した結果だと思えます。そんな社



製材品を厳しくチェックする

員を誇りに思います。受賞により社員の意気も盛りあがりました。

「真庭の地域性」

先代の頃は、山人夫も抱え立木買付、伐採、製材迄自社でやっていましたが、今は市場を核にして分業化しています。美作地域は山から製品市場まで一連のシステムが確立している数少ない地域だと思います。製材所も樹種別、品物別に専門化されています。原木市場で、曲がり度合いも含めてきちんと仕分けされているので、製材所は自分に合うものだけを仕入れることができます。多様な専門工場があり、地域全体で超大型製材所があるとも言える木材の集散地です。補助金工場が侵入する余地のない地域です。

「中国での商談会に参加して」

県産材販路開拓のため、岡山県と県木連主催の中国上海での商談会・展示会に参加しました。我が社の代表品のヒノキ柱と土台、そして真庭を象徴する材として、市役所本庁舎の回廊に使っているヒノキの尺角を回廊写真と一緒に展示しました。多くの人が興味を示し、香りをかいたり手触りの感触を味わっていました。中国は広大で人口も多く、大きな市場だと肌で感じました。でも、単価、量、取引条件等クリアしなければならぬ問題が多々あります。また、中国の戸建住宅の現状は2×4工法に先を越されています。まず、日本古来の建築工法と技術を、国をあげて輸出することから始めれば、構造材の輸出ができると感じました。

「川中からのエール」

今年の特に円高で木材相場が低迷していますが、我々加工業者は消費者の方に使ってもらえる製品を、と日々努力しています。以前の相場には戻らないにしても、日本の大切な資源です。建築用資材以外にもバイオマス発電など木の枝葉までお金になる時代になろう



出荷される製材品

としていきます。素材業者さんの伐採搬出の効率化も進み、山元にお金が戻るシステムが確立しつつあります。

国産材は外材に比べて、出材の量的安定に欠ける欠点があります。その為単価も安定しません。量・単価とも安定供給ができるよう原木の量的安定出荷が望まれます。

住宅部材の木材、特にヒノキは高いというイメージがまだ残っています。素材としての値段は比較的安いです。健康、風土にあった木材を住宅建築にはどんどん使っていただきたいですね。環境を守るためにも。

※本稿取材に当たり、お忙しい中時間を取っていただいた小林社長に感謝申し上げます。

(普及推進課 林業普及推進班)

「森林施業プランナー育成 研修」を開催しました

一 はじめに

岡山県では、平成24年度から森林所有者に対して施業の提案を行う森林施業プランナーの育成を図るため、新たにプランナーを目指す方を対象に、施業の提案・集約化等に必要な知識及び技術を習得するための研修を行っています。この研修は、森林整備加速化・林業再生基金を活用して、森林・林業に必要な人材の育成を行う取組のひとつです。

今年度は、11月に前期・後期（各3日間）に分けて開催し、意欲ある森林組合・林業事業体から参加した15名の研修生を対象に研修を行いました。

二 研修の内容

研修には、これまで全国森林組合連合会が実施していた森林施業プランナー育成研修に当初から関わっていた(株)フォレスト・ミッシヨン及び(株)エス・ピー・ファームの協力により、各分野の専門の講師・ファシリテーターを招いて、提案

型集約化施業の意義、利用間伐のコスト把握と分析、森林施業プラン（施業提案書）の作り方などの座学と提案型集約化施業に必要な目標林型の考え方や作業システム・作業道づくりの基本的な考え方を理解するための現地実習を行いました。

特に、県内で実際に提案型集約化施業に取り組まれている森林組合の職員の方から、これまでの道のり・実際の苦労話や森林所有者に対する提案から困地化までのプロセス等の実例を交えた講義も盛り込みました。

また、森林施業プラン作成の基本となる現地実習については、3



研修の状況

班に分かれて、林分の現状把握、機械を遊ばせないための作業システム、作業道開設の留意点などの



現地実習の状況

検討を行いました。

座学や現地実習のほか、各班ごとに提案型集約化施業を進めるための課題と解決策の整理をワークショップ形式により検討するなど、充実した内容の研修となりました。

森林組合の先輩職員の方の講義は、教科書通りの内容ではなく、失敗談も交えた内容であったことから、研修生にも解りやすく、提案型集約化施業の取組をより実感してもらえたのではないかと思います。



グループワークショップの状況

三 おわりに

現在、岡山県内には、森林施業プランナー研修を受講された方が20名います。今回の研修を受講された方も含めて、今後は、個別指導等により、さらに知識と技術を習得してもらえようフォローアップしていくこととしています。

将来的には、森林所有者から信頼される森林施業プランナーとなり、各地域において意欲的に提案型集約化施業に取り組まれることを期待しています。

(林政課普及指導班)

「防ごう労働災害」

岡山労働局では、2年連続で労働災害が増加したため、2012岡山労働災害撲滅運動実施本部を設置し、労働災害防止対策に取り組みましたが、24年に入って死亡災害が激増し、24年11月8日現在で27人（前年同月比13人増）の方がお亡くなりになりました。

林業においては、22・23年と2年連続して死亡災害がありませんでしたが、24年に入って2件の死亡災害が発生しました。いずれも伐倒作業中の事故でした。

死亡災害

11月8日現在（速報値）

業種別	死亡者数	前年同月比増減数
製造業	7人	+ 3人
建設業	10人	+ 6人
貨物取扱業	0人	- 2人
運輸交通業	3人	+ 1人
林業	2人	+ 2人
その他の事業	5人	+ 3人
計	27人	+13人

各事業体におかれましては、新規就業者への安全教育や安全管理体制を充実させるなど、林業労働災害の未然防止を図っていただきますようお願いいたします。

特に、伐倒作業においては、次の点を再確認していただき、労働災害防止を徹底してください。

○「近接作業の禁止」、「伐倒の場合」「退避」の徹底

○かかり木が発生した場合には、「かかり木の処理の作業における労働災害防止のためのガイドライン」に基づく安全なかかり木処理の徹底

また、冬期は寒さのために身体が動きにくくなります。手元、足元、周囲の確認など、常に変化する作業環境を把握し、基本動作を遵守してください。積雪期における間伐等伐倒作業に当たっては、足元の確認とともに頭上の状況把握も重要です。

最後に、インフルエンザの流行する時期になりますので、手洗い、うがいの励行とマスクの着用で感染防止に努めてください。

（林政課 林業木材班）

★お知らせ★

森林研究所「研究成果発表会」の開催及び参加者募集

岡山県農林水産総合センター森林研究所では、これまで取り組んできた研究を県民の方に分かりやすく紹介し、理解と関心を深めていただくため、次の日程で研究成果発表会を開催します。

一 開催日時

平成25年2月13日（水）

12時20分～15時40分

二 開催場所

津山市大田920 グリーンヒルズ津山リージョンセンター

三 内容

・森林研究所創立60周年記念講演

「地域経済の今後と多様な資源の活用」講師(株)日本総合研究所 主席

研究員 藻谷浩介氏

・成果発表

①省力的きのこ原木栽培の実用化

②強度間伐後の人工林の成長

③木材を利用した土木用構造物の耐久性

④丈夫で簡易な森林作業道作設技術

参加される方は、平成25年2月7日（木）までに森林研究所まで申込をしてください。

〈申込先〉

〒709-4335

勝田郡勝央町植月中1001

森林研究所

電話 0868-3813151

FAX 0868-3813152

メール ringyo@prefokayama.lg.jp

なお、申込の際には住所・氏名・電話番号をお知らせください。

優良種菌で確かな収穫

もりのたねごま

◆シイタケ、ナメコ、ヒラタケ等の品種の選定及び栽培管理についてなんでも御相談下さい。

製造 森産業株式会社

岡山営業所 岡山市北区辰巳46-104 TEL 岡山(086)805-7033(代)

技能講習会の開催(1~3月)

※詳細は申込先にお問い合わせください。

名称	会場	日程	申込・問合せ先
小型移動式クレーン運転	岡山 津山	1月24, 25日・3月14, 15日 2月25, 26日	(社)岡山県労働基準協会 TEL(086)225-3571
玉掛け(未経験者対象)	岡山 玉野 津山	1月12, 13・17, 18日・2月7, 8日 3月7, 8日・9, 10日 2月18, 19日 2月21, 22日	
移動式クレーン運転士		1月22日・3月5日	中国四国安全衛生技術センター TEL(084)954-4661
はい作業主任者	倉敷	2月6, 7日	陸上貨物運送事業労働災害防止協会 岡山県支部 TEL(086)234-1332

森林・林業関係イベント参加募集

実施年月日	開催場所	イベントの名称	問合せ・申込み先
1. 19(土) 9:00~12:30	龍ノログリーンシャワーの森 (岡山市中区祇園地内)	保育のつどい (広葉樹林整備)	龍ノログリーンシャワーの森を守る会 TEL 086-275-5073
1. 20(日) 9:00~12:30	櫻の杜 (井原市門田町)	櫻の杜塾・第153回杜の市 (特産品の販売など)	櫻の杜塾 塾長 田村駿逸 TEL 0866-62-8614
1. 26(土) 10:00~12:00	おかやま共生の森・井原 (井原市西江原町地内)	保育のつどい (間伐)	井原市森林組合 TEL 0866-72-0161
2. 2(土)	おかやま共生の森・柵原 (美咲町書副地内)	保育のつどい (間伐・枝打ち)	久米郡森林組合 TEL 0868-66-0053
2. 16(土) 9:30~	真備美しい森 (倉敷市真備町市場)	竹林整備 クリ植栽地の下刈り	倉敷地域森づくりの会 TEL 0866-92-5600
2. 17(日) 9:00~12:30	櫻の杜 (井原市門田町)	櫻の杜塾・第154回杜の市 (特産品の販売など)	櫻の杜塾 塾長 田村駿逸 TEL 0866-62-8614
3. 2(土) 9:30~	総社市下倉地内	ヒノキ林の手入れ ヒラタケ植菌	倉敷地域森づくりの会 TEL 0866-92-5600

FOREST
INSURANCE

森林
国営保険



加入できる森林は? 人の手が加わった森林
加入期間は? 1年単位で何年でも!

保険金がでるのは?

火災、風害、水害、雪害、干害等気象災の損害があったとき、森林所有者に支払われます。

岡山県では過去5年間で10億円以上の保険金が支払われました。

ご契約のモデルケース(1haあたり)

樹種…ヒノキ 契約時林齢…1年
保険期間…5年 保険金額…最大188万円
一括払いだと21,225円(5年間計)

樹種…ヒノキ 契約時林齢…26年
保険期間…5年 保険金額…最大299万円
一括払いだと37,375円(5年間計)

1ヶ月あたり
約350円

わずが缶ビール
1本分

1ヶ月あたり
約620円

わずがラーメン
1杯分

○保険金額を50%にすることにより、保険料を50%にすることも出来ます。

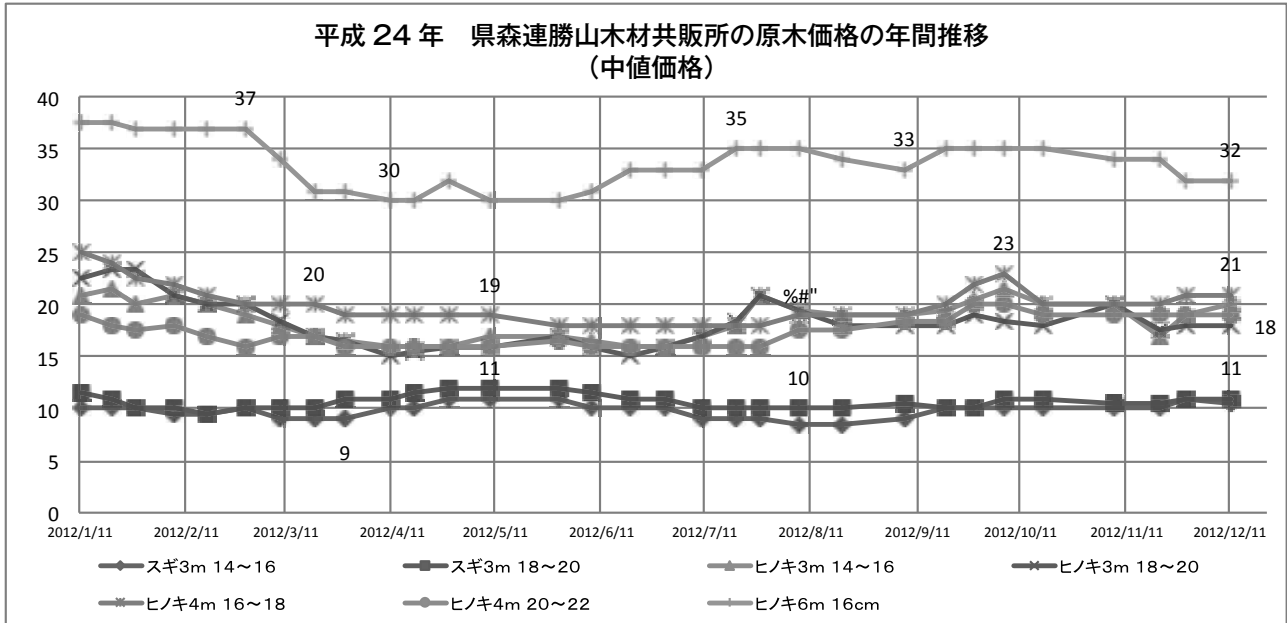
○条件によって契約金額が変わってきます。

○ご相談は、最寄りの森林組合、県民局(森林整備課)・地域事務所(地域森林課)の窓口へどうぞ。

岡山県農林水産部治山課 電話番号 086(226)7455(直通)



林産物市況



製材 (12月中旬)

樹種	寸法	等級	区分	安値~高値	備考
スギ	正角 3m 10.5cm 角	特等	G	30,000 ~ 35,000	注文挽き
		特等	K	50,000 ~ 55,000	
	正角 3m 12cm 角	特等	G	30,000 ~ 35,000	注文挽き
		特等	K	50,000 ~ 55,000	
ヒノキ	正角 3m 10.5cm 角	特等	K	53,000 ~ 63,000	
	正角 3m 12cm 角	特等	K	53,000 ~ 60,000	
マツ	平角 4m 10.5 ~ 12cm × 15 ~ 18cm	一等	K	60,000 ~	
米マツ	正角 3m・4m 10.5cm 角	特等	G	42,000 ~ 47,000	
	平角 3m・4m 10.5×15 ~ 21cm	特等	G	44,000 ~ 48,000	
北洋アカマツ	タルキ 4m 3.8cm 角	特等	K	60,000 ~ 62,000	
ホワイトウッド	間柱 3m 2.7cm × 10.5cm	特等	K	52,000 ~ 57,000	国内挽き

注：価格は、岡山県内の市場の相場を参考とした。

木材共販日のご案内 岡山県森林組合連合会 **JForest**

謹賀新年

本年もお引き立ての程、宜しくお願ひ申し上げます。

1/11 初市
(金) <勝山・津山共販所>

1/12 初市
(土) <新見共販所>

2/20 久米郡森林組合林業祭
(水) <津山共販所>

◆各共販所とも多くの出材をお待ちしております

日本植生は環境緑化技術を創造し、地球環境の保全に貢献します。

間伐材利用緑生基材マット	間伐材利用緑生マット	間伐材利用生分解型緑生マット	間伐材利用生分解型緑生シート	間伐材利用緑生シート
グリーンフォーム 切土敷岩用	森樹郎マット 切土土砂用	森樹郎マット21 切土土砂用	張りウッド 盛土用	ハリシバモック 盛土用

「岡山県エコ製品」の認定を受けた5品目
間伐材を有効利用した環境緑化資材です。

NETIS登録：CB-010046-A 間伐材利用緑生マット工法「森樹郎(シンキロウ)マット工法」


太陽と緑の国づくり
Nihon 日本植生株式会社
http://www.nihon-shokusei.co.jp/
津山支店 / 津山市高尾573-1 TEL (0868) 28-0256
岡山営業所 / 岡山市北区横井上1328-2 TEL (086) 294-1000

—— 安全・人と自然・調和 ——

造林木を野生動物の食害から守る

〔野生獣類忌避剤〕コニファー水和剤 〔幼令樹保護カバー〕くわんたい
〔樹皮食い防止に〕バークガード 〔野生草食獣食害防止〕防獣ネット
〔クズ専用除草剤〕ゼイトロン・ゼイトロンフレノック・ケイシンエース
〔樹幹注入剤〕センチュリーエース ★新発売★マッケンジー注入剤
(お問い合わせ申し込みは県森地・森林組合へ)

販売元：日植アグリ株式会社 大同商事株大阪営業所
TEL：086-292-5525 TEL：06 6231-2819

 **「緑の募金」** ご協力をお願いします

緑の募金でふせごう地球温暖化

募金期間
春のみどりの月間
4月1日～5月31日
秋のみどりの月間
10月1日～10月31日

口座振込はこちらへ

ゆうちょ銀行	01270-0-5225
中国銀行岡山駅前支店	1852041
トマト銀行岡山駅前支店	1027972

 寄付金に対する税の優遇措置が適用されます。

公益社団法人 岡山県緑化推進協会
岡山市北区錦町1-8 TEL・FAX (086) 221-9511

木を通して環境保全に貢献しています

公園緑地施設・土木用資材
防臭処理・ログハウス・デッキ

さんもく工業株式会社
〒702-8245 岡山市南区海津通2丁目6番3号
TEL 086 262-2137(代) FAX 086-262-0137

緑あふれる環境づくり

 **山都屋** 株式会社

本社 〒703-8273 岡山市中区門田文化町2丁目11番51号
TEL (086) 272-2161 FAX (086) 272-2142
http://www.yamatoya-net.com
大阪営業所 津山営業所 水島営業所

平成二十五年一月一日(第四二七号)
(隔月一日発行)

編集
発行
〒700-8750 岡山県林政課内 岡山県林業改良普及協会
岡山市北区内山下二一四一六

安心と信頼の証を届けます



創業以来、永年に渡り体育器具・遊具を製作してまいりました。地元メーカーとして責任ある製品作りに取り組み、安心と信頼を皆様にお届けします。

日本体操協会器械器具検定工場・日本公園施設業協会認定工場

OHKUBO 大久保体育株式会社

■本社 〒703-8214 岡山市東区鉄409 TEL(086)279-0585 FAX(086)279-0460
 ■倉敷営業所 〒710-0312 倉敷市藤戸町天城1021-1 TEL(086)428-7576 FAX(086)428-6153
 ■東京営業所 〒103-0004 東京都中央区東日本橋2-21-3 TEL(03)3863-0722 FAX(03)3863-0778

スミヤケール 販売中!

ドラム缶式炭化炉に比べ、はるかに簡単! 手軽に炭が作れます。

(岡山県倉敷市真庭町有井141-7)



軽量
工具不要

軽量コンパクト
耐久性抜群
(ステンレス)
工具不要で簡単
(組み立てる必要)

煙突1ヶタイプ (サイズ2種)
煙突2ヶタイプ (サイズ4種)

株式会社 ファインテクノ・タケダ

営業本部 真庭工場
岡山県倉敷市真庭町有井141-7
TEL: 0866-98-5312(代表)
FAX: 0866-98-5316

サンケイの松くい虫防除薬剤

多目的使用(空中散布・地上散布)が可能な
スミパイン® 乳剤・MC
樹液を枯死させ防止用散布剤

モリエート® SC
ナラ枯れ予防用樹液注入剤


ウッドキング® SP

伐倒木用くん蒸殺菌剤
キルパー® 40
伐倒木用薬剤

パインサイド® S油剤D
樹液注入剤

グリーンガード® ファミリー

お困り合わせは最善の果敢達・森林組合へ



サンケイ化学株式会社
大阪市淀川区西中島4丁目5番1号 電話(06)6305-5871




CT-500B GP-532
小型ハイパワー・プロセス

shindaiwa

高性能大型林業機械から電動工具まで何でも揃う

美津吉商事株式会社

津山市一方194 〒708-0883 TEL(0868)23-2255
http://www.mitsuyoshi.com/



緑豊かな自然を守る

治山・林道事業の普及啓発、技術援助
治山・林道の調査、測量、設計、積算
森林整備の総合計画

一般社団法人 岡山県森林協会

岡山市中区高屋 225-1 TEL 086-271-3711
津山市二宮 1849-2 TEL 0868-28-9360